

申請日： 年 月 日

広島県医師会会長様

該当する申請に☑してください

【1】日医生涯 教育認定講 座	【2】診療報酬 算定に必要 な講習会	【3】専門医の 認定に必要 な講習会
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

主催団体名： _____

代表者： _____ 印

申請書 (2016.4～)

日本医師会生涯教育講座として認定していただきたく申請いたします。

講座名称： _____ ※1

開催日時： _____ 年 月 日 () ~ _____ ※2

場 所： _____ 参加予定数： _____ 名

プログラム：別紙添付(プログラム等、**学術集会の全容がわかるものを添付**すること)

カリキュラムコードおよび単位数：(講習時間1時間で1単位とし最短30分(0.5 単位)とする。)

講演時間	： 　～ 　：	カリキュラムコード No, _____	_____ 単位
講演時間	： 　～ 　：	カリキュラムコード No, _____	_____ 単位
講演時間	： 　～ 　：	カリキュラムコード No, _____	_____ 単位
講演時間	： 　～ 　：	カリキュラムコード No, _____	_____ 単位
講演時間	： 　～ 　：	カリキュラムコード No, _____	_____ 単位
講演時間	： 　～ 　：	カリキュラムコード No, _____	_____ 単位

共 催： _____

※ 共催/後援にかかわらず業者が関与する場合は必ず上記に名称を記入すること。

なお共催/後援に際しては 医療用医薬品製造販売業公正取引協議会規約に準拠すること。

連絡先：〒 _____ (住所)

(名 称) _____ TEL _____

(担当者) _____ FAX _____

※3 **【副申請】** 上記講演会は**日医生涯教育講座として適切なものと認め** 副申いたします。

(医師会は、内容を十分に検討して、日本医師会生涯教育単位認定に相当する講演会であることを審査、承認すること。)

_____ 印 (医師会名・会長印)

※1 2日間にわたる研修会については、1日につき1枚申請書をご提出ください。

※2 参加者が全時間参加することが条件です (遅刻などは常識の範囲で対応ください)。

※3 副申請=必ず開催場所を所管する市郡地区医師会長の承認を得てください。

その他裏面の注意事項をよくお読みください。

注 意 事 項

【提出期限について】

・厳守のこと。期限を過ぎたものは申請できません。

【申請時間について】

・講演時間に開会挨拶、閉会挨拶、質疑応答等は含みません。

【その他】

- ・営利もしくは営利と推測される講座は認定できません。(メーカーが申請者、メーカーが講師、演題に商品名を含む、等)
- ・共催および後援がある場合は必ず申請書の【共催】欄に記載してください。
- ・生涯教育講座での商品宣伝は不可です。(講演会開始前もしくは終了後は可)
- ・市郡地区医師会長の審査承認を受けたものをオンライン研修管理システムにデータ入力してください。

■認定基準について

2016/03/29

種 別 項 目	【1】日医生涯教育 認定講座	【2】診療報酬算定に 必要な講習会	【3】専門医の認定に 必要な講習会
基本時間・CC	最短 30 分 1CC	1 時間 1CC	1 時間 1CC
メーカー共催	可	不可	不可
申請期限	開催 1 か月前	開催 2 か月前	開催 3 か月前
講 師	営利団体社員等でないこと	①1 講師・1 演題・連続した1時間以上を原則とする。 ②営利団体社員等でないこと	①1 講師・1 演題・連続した1時間以上を原則とする。 ② 講師資格は下記のとおりとする。 (1)大学の助教以上、研修施設勤務の医長、部長、院長 (2)開業医においては上記職歴経験者
認定者	県医師会 常任理事会	県医師会 常任理事会	(1次審査)日医生涯教育・専門医制度運営委員会 (2次審査)機構認定・更新部門委員会
受講認定	—	講座開始より終了まで出席すること。 (遅刻・早退は認めない)	講座開始より終了まで出席すること。 (遅刻・早退は認めない)
申請方法	所定の申請様式に必要事項を記入し、1 演題ごとに①演題(仮題不可)、②演者、③講演時間、④カリキュラムコードを明記したプログラムを添付し、地区医師会で認定基準を満たすかを十分に精査したうえで、副申請欄に会長印を捺印したものをデータ入力し、申請書原本を県医師会へ提出する。		

専門医の認定ならびに診療報酬算定に必要な講習会については1回の講習は連続する1時間以上とし、1時間の講習受講をもって1単位と算定します。なお、製薬メーカー等の共催は一切認めません。

新たな専門医の仕組みについては、日本医師会、日本医学会連合、全国医学部長病院長会議を設立時社員として設立された日本専門医機構が各学会の専門医制度の見直しや統一化などの調整作業を行っています。

◆各医師会は、内容を十分に検討して、「日本医師会生涯教育講座にふさわしい講座である」ことを審査、承認し、単位とカリキュラムコードを認証すること。

日本医師会生涯教育カリキュラム<2016>カリキュラムコード(略称:CC)

1	医師のプロフェッショナリズム	22	体重減少・るい瘦	43	動悸	64	肉眼的血尿
2	医療倫理: 臨床倫理	23	体重増加・肥満	44	心肺停止	65	排尿障害 (尿失禁・排尿困難)
3	医療倫理: 研究倫理と生命倫理	24	浮腫	45	呼吸困難	66	乏尿・尿閉
4	医師－患者の コミュニケーション	25	リンパ節腫脹	46	咳・痰	67	多尿
5	心理社会的アプローチ	26	発疹	47	誤嚥	68	精神科領域の救急
6	医療制度と法律	27	黄疸	48	誤飲	69	不安
7	医療の質と安全	28	発熱	49	嚥下困難	70	気分の障害(うつ)
8	感染対策	29	認知能の障害	50	吐血・下血	71	流・早産 および満期産
9	医療情報	30	頭痛	51	嘔気・嘔吐	72	成長・発達の障害
10	チーム医療	31	めまい	52	胸やけ	73	慢性疾患・ 複合疾患の管理
11	予防と保健	32	意識障害	53	腹痛	74	高血圧症
12	地域医療	33	失神	54	便通異常 (下痢、便秘)	75	脂質異常症
13	医療と介護 および福祉の連携	34	言語障害	55	肛門・会陰部痛	76	糖尿病
14	災害医療	35	けいれん発作	56	熱傷	77	骨粗鬆症
15	臨床問題解決のプロセス	36	視力障害・ 視野狭窄	57	外傷	78	脳血管障害後遺症
16	ショック	37	目の充血	58	褥瘡	79	気管支喘息
17	急性中毒	38	聴覚障害	59	背部痛	80	在宅医療
18	全身倦怠感	39	鼻漏・鼻閉	60	腰痛	81	終末期のケア
19	身体機能の低下	40	鼻出血	61	関節痛	82	生活習慣
20	不眠	41	嗝声	62	歩行障害	83	相補・代替医療 (漢方医療を含む)
21	食欲不振	42	胸痛	63	四肢のしびれ	0	その他